

参加の申込みについて

申込方法

別添の参加申込書に必要事項を記入の上、郵送又はFAXで申し込んでください。
(部分的な参加も可能です。)

申込先

奈良県立教育研究所
“教育セミナー2017”係
郵送：〒636-0343
奈良県磯城郡田原本町
秦庄22-1
FAX：0744-33-8909



締切

5月19日(金)

お願い

- なるべく公共交通機関をご利用ください。
- 参加において、手話通訳・車いす等の配慮を必要とされる場合は、申込書の備考欄にその旨をお書きください。



日程、内容等に変更があった場合は、奈良県立教育研究所のWebページにてお知らせします。
当日の午前11時現在、県内いずれかの地域で気象警報が発令されている場合は、中止とする場合がありますので、参加の前にはご確認ください。
↓
奈良県立教育研究所のWebページ
<http://www.nps.ed.jp/nara-c/>

会場への案内



近鉄橿原線 笠縫駅から南西へ 約0.6km

問合せ先

奈良県立教育研究所 教科教育係
TEL：0744-33-8903

平成29年度 奈良県立教育研究所
教育セミナー2017
(御案内)

「学びをつなぐ」
～深い学びの実現を目指して～



日時 平成29年5月29日(月)
13:00～16:20 (受付12:30～)
場所 奈良県立教育研究所
対象 教育関係者及び教育に関心のある方

日程

12:30	13:00	13:10	14:25	14:40	15:25	15:35	16:20	17:00
受付	開会式	全体会	移動・休憩	研究発表1	移動・休憩	研究発表2	館内開放	
パネル等の展示(研究成果及び各種紹介パネル)・教材体験(ICT機器、実験器具等)								

開会式・全体会
13:00～14:25
(受付 12:30～)

① 基調講演

学びをつなぐ
「アクティブ・ラーニング」

京都大学
高等教育研究開発推進センター
教授 溝上 慎一氏

※は、なるべく前半・後半通しの参加をお願いします。


研究発表 1 14:40～15:25	※② プロジェクト研究Ⅰ 幼小接続 前半 指定研究
	※③ プロジェクト研究Ⅱ 学校事務 前半 指定研究
	④ プロジェクト研究Ⅲ 言語活動の充実【中学校 国語】 指定研究
	⑤ プロジェクト研究Ⅲ 言語活動の充実【中学校 英語】 指定研究
	⑦ プロジェクト研究Ⅲ 理数教育の推進【小学校 理科】 指定研究
	⑧ プロジェクト研究Ⅲ 理数教育の推進【中学校 数学】 指定研究
	※⑨ プロジェクト研究Ⅲ ICT活用【小学校 算数】 前半 指定研究
	※⑩ プロジェクト研究Ⅳ 教育相談 前半 指定研究
	※⑪ プロジェクト研究Ⅴ 特別支援教育 前半 指定研究
	⑭ カウンセリングマインド 大学院研修研究報告
	⑮ 地域連携 大学院研修研究報告
	⑯ 校内研修 大学院研修研究報告

研究発表 2 15:35～16:20	※⑫ プロジェクト研究Ⅰ 幼小接続 後半 指定研究
	※⑬ プロジェクト研究Ⅱ 学校事務 後半 指定研究
	⑬ プロジェクト研究Ⅲ 言語活動の充実【高等学校 地理歴史】 指定研究
	⑫ 個人研究 教材・教具【高等学校 英語】 指定研究
	⑬ 個人研究 教材・教具【小学校 理科】 指定研究
	⑳ 小学校メディア教育研究会 実践報告
	※⑭ プロジェクト研究Ⅲ ICT活用【小学校 算数】 後半 指定研究
	※⑮ プロジェクト研究Ⅳ 教育相談 後半 指定研究
	※⑯ プロジェクト研究Ⅴ 特別支援教育 後半 指定研究
	⑰ 学校適応支援 大学院研修研究報告
	⑱ カリキュラム・マネジメント 大学院研修研究報告
	⑲ キャリア教育 大学院研修研究報告

館内開放
16:20～17:00

“未来の先生”のコーナー

教員になることを志望する学生が「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくりについて提案します。



当日配布するアンケートへの御協力を
お願いいたします。
(アンケートは各会場にて回収しています。)

こちらもぜひお立ち寄りください!
(展示時間 12:30～17:00)

パネル等の展示

奈良県立教育研究所の研究成果や、奈良県教育委員会各課・室の取組をまとめたパネル等を展示しています。

教材体験

新しい教材やICT機器、デジタル教材など、実際に実物に触れながら、体験できます。

プロジェクト研究Ⅰ 幼小接続

②/⑫ 遊びから主体的な学びへつなぐ幼小接続の在り方
⑫ 幼児期の教育と小学校教育に関する教職員が、互いの教育に目を向け、子どもにとって必要な力を共有し、接続期の活動に生かした取組を報告します。子どもが主体的に活動できる取組の視点や環境・援助について共に考えます。

プロジェクト研究Ⅲ 理数教育の推進【小学校 理科】

⑦ 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり
問題を見いだしたり考察したりする学習場面を中心に、探究の過程を充実させることが深い学びにつながると考え実践しました。内容によって、対話的に考えたり、一人で主体的に考えたりするのにふさわしい場面を設定して行った観察・実験の結果を報告し、小・中・高すべてに通じる理科教育について共に考えます。

個人研究 教材・教具【高等学校 英語】

⑫ 4技能を高める効果的なワークシートの開発
英語4技能の指導において、苦手と感じている層の力を高めるためのワークシートを作成し、有効かどうか検証しました。その結果について報告し、4技能を高める英語科の教材・教具について共に考えます。

大学院研修研究報告 学校適応支援

⑰ 中学校における学校適応支援の取り組み
一品格教育による予防教育
中学校において、生徒間の関係形成にアプローチすることにより、学校不適応感の低減を目的とした品格教育のプログラムを開発・実施しました。取り組んだプログラムの概要と結果について報告します。

プロジェクト研究Ⅱ 学校事務

③/⑫ 学校事務業務改善による事務の効率化
⑫ 組織マネジメント手法を活用した取組を実施することにより、教育活動と財務とのつながりについての教職員の理解が深まりました。その結果、財務に関する業務についての負担感が減少し、事務の効率化が進んだことについて報告し、チーム学校の一員として事務職員の果たす役割を共に考えます。

プロジェクト研究Ⅲ 理数教育の推進【中学校 数学】

⑧ 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり
「アクティブ・ラーニング」の視点から授業づくりを進め、数学への好意性や有用性を高める様々な取組を行いました。また、その効果を調べるために、取組前後に複数回の授業の振り返りや学習意識調査等を行い、効果を検証しました。その結果、「アクティブ・ラーニング」自己評価や学習意識は向上し、有効性が示されたことについて報告し、授業づくりについて共に考えます。

個人研究 教材・教具【小学校 理科】

⑬ 学習意欲を高める教材・教具の開発
小学校3年生の理科において、オオムラサキやカイコ等を素材とした教材開発に取り組みました。その成果を報告し、ワークショップを通して、明日からの授業に役立つ、学習意欲を高める教材・教具について共に考えます。

大学院研修研究報告 カリキュラム・マネジメント

⑱ カリキュラム・マネジメントの実践的研究
一運動会の改善を目指した取組をもとに
次期学習指導要領の理念を実現するために必要な方策の一つとされているカリキュラム・マネジメントの研究です。運動会の改善を目指した取組に、その手法を取り入れることで生じる成果について教育面及び経営面から報告します。

プロジェクト研究Ⅲ 言語活動の充実【中学校 国語】

④ 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり
生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びの視点からの中学校国語科の授業づくりについて研究しました。「読むこと」に関する具体的な実践事例や成果物の紹介、研究結果の報告を基に、これからの国語科の学びについて共に考えます。

プロジェクト研究Ⅲ ICT活用【小学校 算数】

⑨/⑫ 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり
⑫ 単元計画の中でねらいを明確にし、見通しをもってICTを活用することが、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、効果的であることを研究しました。小学校算数科における実践での研究結果の報告を基にして、「アクティブ・ラーニング」の視点におけるICTを活用した授業の在り方について共に考えます。

大学院研修研究報告 カウンセリングマインド

⑭ いじめなどのめもごと問題の解決とその予防に関する研究
児童生徒間で起こるめもごと問題の解決や予防のための方法について、認知行動療法やピア・メディエーションを生かした授業プログラムを策定し実践した内容を中心に報告します。

大学院研修研究報告 キャリア教育

⑲ 高等学校でのキャリア教育推進に向けたカリキュラムに関する一考察
一「奈良TIME」における潜在的な学びの検証を通して
キャリア教育の推進に向けて、特に高等学校普通科における現状と課題を踏まえ、探究的な学習活動の中にキャリア教育に関する学びの可能性を見いだす研究を行いました。その概要を報告します。

プロジェクト研究Ⅲ 言語活動の充実【中学校 英語】

⑤ 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり
「アクティブ・ラーニング」の視点から創造的なコミュニケーション活動の工夫等を中心とした研究を行いました。生徒が知識・技能を活用して能動的に英語を使おうとする態度の育成を目指し、授業デザインの段階で意識したいことや、4技能を統合的に活用するアクティビティ等、活動も交えながら共に考えます。

プロジェクト研究Ⅳ 教育相談

⑩/⑫ 開発的教育相談の効果的な活用の在り方
⑫ 一ストレスマネジメントを中心として
児童生徒の学校不適応の問題とストレスとは密接な関係があり、児童生徒が自己のストレスに適切に対処できるようになることが求められています。本研究は、ストレスマネジメントを中心とした開発的教育相談の効果的な活用の在り方について、中学校2校の協力を得て2年間取り組むプロジェクト研究です。本年度は生徒のストレスチェックの結果を基に作成した試行プログラムの取組について報告し、プログラムの効果的な在り方について共に考えます。

大学院研修研究報告 地域連携

⑮ 小学校における円滑な地域連携推進の方法に関する研究
一地域連携担当の役割を通して
学校組織における地域連携担当の役割を再構築することを通して、小学校で地域連携活動を円滑に推進する方法についての研究をしました。地域連携担当が取り組むことで効果のあった実践内容について報告します。

実践報告 小学校メディア教育研究会

⑳ 東吉野小学校のICT教育の取組
遠隔地の学校や外部講師をICTで結び、年間を通じて合同学習などを実施することにより、指導方法の開発や有効性の検証などを行いました。タブレットPC等を用いた授業や体力作りの実践についても、体験しながら共に考えます。

プロジェクト研究Ⅲ 言語活動の充実【高等学校 地理歴史】

⑥ 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり
「歴史的事象を多面的・多角的に考察する力」を身に付けさせることを目指して、「歴史的事象の類似や差異、因果関係に着目した、課題を追究したり解決したりする主体的・対話的な活動を取り入れた授業展開」を工夫しました。その結果について報告し、地理歴史の授業づくりについて共に考えます。

プロジェクト研究Ⅴ 特別支援教育

⑪/⑫ 障害のある子どもない子ども共に学ぶ学校づくり
⑫ 一インクルーシブ教育システムの構築を目指して
障害のある子どもない子ども共に学ぶ学校づくりに関する実践的研究を小学校2校で行いました。今ある校内支援体制を生かす教職員の取組と交流及び共同学習での児童生徒の学びを追究する取組から、インクルーシブ教育システムの構築を目指した学校づくりにおいて考慮する点をまとめました。その内容と成果を報告し、これからの学校づくりに向けて共に考えます。

大学院研修研究報告 校内研修

⑯ 教員の組織的意識醸成に向けた校内研修の在り方
一若手教員研修・中堅教員研修の取組から
個々の教員の力を学校組織で発揮し、学校全体を活性化する方法について研究し、組織と個の結びつきについての研修を行いました。自己の強み認識や、組織の中での役割理解など、実践した内容を報告します。

